

皆さん、こんにちは。

男子アンダー世代の競技会において2つ、大きな動きがあったことをご報告します。

まずひとつは、AFC U23アジアカップ2028の日本開催が決定したことです。同大会は同年夏に開催されるロサンゼルスオリンピックの予選を兼ねており、出場枠が「3・5」から「2」に減ってしまうため厳しい戦いが予想されます。本大会に出場してメダルを獲得するという大事なミッションに向けて、まずはしっかりとアジア予選を勝ち上げなければなりません。ホームで開催できることを心から嬉しく思います。

ほかに立候補した国がいくつかあった中で、施設や運営面での水準の高さを評価していただいたと思っています。費用面で一部負担しなければならないところではありますが、こうした国際大会を開催することは今後に向けたJFAの実績にもなります。われわれが目指すAFCアジアカップの日本開催、そして2039年以降のFIFA女子ワールドカップ招致に向けても大きな一歩になると思います。

また「JFA成長戦略2026-2031」では、日本代表の強化とともにアジアサッカー全体の発展に貢献し、その成長を日本がけん引していくことを掲げています。次代のアジアサッカーを担う選手たちに「日本でプレーできて良かった」と感じてもらえるような大会にしたいと考えています。

そしてもうひとつは、キプロスで開催されるUEFA U-17欧州選手権予選ラウンド1・グループ13の開催(10月27日～11月2日)にあわせ、U-16日本代表が出場チームのキプロス、ルーマニア、フェロー諸島と国際親善試合を行うことになりました。

選手の育成を考えると、早い年代で欧州トップレベルの競技会を経験できるような舞台が必要であり、昨年6月に欧州に出向いた際に欧州サッカー連盟(UEFA)側にストレートに相談したところ、良い感触がありました。というのも、SAMURAI BLUE(日本代表)が高いレベルにあること、UEFAとしてもさまざまなチームと試合をしておきたいこと、そしてUEFA傘下のクラブにとっては日本の若い才能を欧州でチェックできるということ。このようなメリットがUEFAを動かすことになりました。われわれとしてもUEFAと一緒にできる意義は非常に大きいと思っています。U-16日本代表の試合は公式戦扱いにはなりませんが、それでも欧州選手権予選真っ最中のゲームになるため、極めて公式戦に近い雰囲気で行うことができます。



現在、UEFAと北中米カリブ海サッカー連盟(Concacaf)がネーションズリーグの統合を検討しているという話があります。アジアサッカー連盟(AFC)もネーションズリーグ創設の方針を打ち出しており、各大陸の内外でサッカーを取り巻く環境が大きく変わり始めています。国内での取り組みを一つ一つ着実に進めていくことはもちろん、同時に世界のサッカーを取り巻く変化をしっかりと捉えながら、その流れの中で日本のサッカーをどう成長させていくのかを考えていくことが重要です。国内と世界、その両方に目を向けながら、日本サッカーのさらなる強化と発展に取り組んでいきたいと思っています。

ツネログ

#25
2026年9月号



会長の活動報告

2026年7月24日～8月20日(抜粋版)

JFAオフィシャルパートナー 各社 御礼訪問

FIFAワールドカップ2026を終え、代表チームの活動を支援いただいているパートナー各社を訪問しました。今大会はもちろん、日頃から寄せていただいているご支援にあらためて感謝の気持ちをお伝えしました。



7/24(金)

SAMURAI BLUE監督発表記者会見(都内)

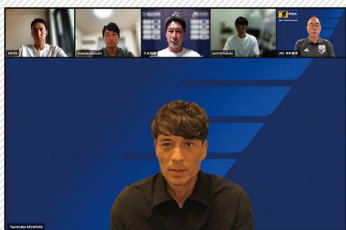


森保一監督にはAFCアジアカップまで、大岩剛監督にはその先の日本代表を託します。これまでの日本が積み上げてきた経験を生かしながら新たな力を加える「継承と進化」で、2030年のFIFAワールドカップへ向かいます。

7/27(月)

2026年度Proライセンス養成講習会 第2コース開講式(オンライン)

第2コースに参加する12人の皆さんに激励の言葉を送りました。それぞれの経験を持ち寄り、互いに学び合いながら成長し、これからの日本サッカーの未来をつくる指導者になってほしいと期待しています。



7/28(火)

WEリーグ理事会(オンライン)

7/31(金)

令和8年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会(女子)決勝(北海道/リアルター夢りんご東光スポーツ公園球技場)



絶え間なく強い雨が降る悪天候の中、両チームの選手たちは一つひとつのプレーに全力で向き合い、それぞれが持てる力を出し切ろうとしていました。懸命にボールを追いつける姿が印象に残る試合でした。

8/12(水)

夏休み子ども体験型イベント 「SAMURAI BLUEも最初はココにいた!？」 ～世界へつながる『天皇杯』のヒミツに迫る～(blue-ing!)



子どもたちと一緒に天皇杯の歴史や魅力を振り返りながら、世代やカテゴリーを越えて世界へつながる大会であることを伝えました。子どもたちの素直な反応や質問も楽しく、充実した時間になりました。

8/14(金)

第2回JFAみらい会議-女子サッカーの成長へ-(blue-ing!)



「JFA成長戦略2026-2031」の柱である「女子全体戦略」を発表しました。女子サッカーをさらに成長させるには、代表強化はもちろん、普及や育成、指導者、審判、ファンづくりまで一体で進める必要があります。女子サッカーを日本のスポーツ文化として根付かせていきます。

8/20(木)

9地域代表者会議、JFA理事会(JFAハウス)

理事会トピックス



2026年度第10回理事会が8月20日(木)にJFAハウスで開催されました。
詳細およびその他の決議・報告事項については、JFA公式Webサイトをご参照ください。

決議事項

医学委員の交代

退任する大塚一寛氏に代わり、ジュピロ磐田および聖隷浜松病院スポーツ整形外科で勤務している船越雄誠氏が医学委員に選任されました。

AFCクラブ競技会における2027/28シーズン以降の 出場クラブのノミネーション方法

2026/27シーズンからAFCチャンピオンズリーグEliteの出場枠が24から32に拡大され、日本の出場枠も3から5に増えました。これを受け、同大会には前シーズンのJ1リーグ上位5チーム(1~3位はプレリミナリーステージを経ずに出場できるダイレクト枠、4・5位はインダイレクト枠)、ACL Twoには前シーズンの天皇杯優勝チームをノミネートすることになりました。なお、ACL Eliteのインダイレクト枠のチームがプレリミナリーステージで敗退した場合はACL Twoに出場します。

2026/27シーズンはACL Eliteに2025 J1リーグ優勝の鹿島アントラーズ、2026 J1百年構想リーグ準優勝のヴィッセル神戸、2025 J1リーグ準優勝の柏レイソルに加え、プレリミナリーステージを経て京都サンガF.C.およびACL Twoを制したG大阪が出場します。また、ACL Twoにはダイレクト枠で第105回天皇杯優勝のFC町田ゼルビアが出場しています。

報告事項

SAMURAI BLUEのナショナルコーチングスタッフ体制が決定

AFCアジアカップ2027を目指すSAMURAI BLUEのコーチングスタッフについて、FIFAワールドカップ2026前にコーチングスタッフに加わった中村俊輔コーチを含め、名波浩コーチ、齊藤俊秀コーチ、前田遼一コーチ、長谷部誠コーチ、下田崇GKコーチ、松本良一フィジカルコーチが引き続きチームを支えることが決まりました。

令和8年熊本地震への支援活動

令和8年熊本地震による被害に際し、「国内における自然災害等による被害に対する支援事業に関するガイドライン」および過去の支援実績を踏まえ、被災者の生活再建ならびに被災地域の復旧・復興を支援するため、熊本県に対して500万円の義援金を拠出しました。

FIFA Forward Enterprise(FFE)

国際サッカー連盟(FIFA)が公表した、商業機能を担う子会社「FIFA Forward Enterprise(FFE)」の設立計画と、外部資本導入に関する構想の公表から撤回までの経緯、その後の経過について説明されました。

Information

AFC U23アジアカップ2028 日本開催が決定

アジアサッカー連盟(AFC)は7月30日、AFC U23アジアカップ2028を日本で開催することを決定しました。同大会は同年7月に行われる「第34回オリンピック競技大会(2028/ロサンゼルス)」の予選を兼ねており、上位2チームがオリンピック本大会への出場権を手に入れます。※7/30発表

日本サッカー殿堂に澤穂希氏、今西和男氏、田嶋幸三氏を掲額

JFAは、2026年度第22回日本サッカー殿堂の掲額者として元なでしこジャパン(日本女子代表)の澤穂希氏、サンフレッチェ広島初代総監督の今西和男氏、JFA前会長・現名誉会長の田嶋幸三氏を選出しました。今年度から女子部門の選手選考投票を開始し、澤氏が選出。これにより、殿堂の掲額者・チーム数は100名・3チームとなりました。掲額式典およびレセプションは9月1日に開催されます。※8/3発表

「JFA成長戦略2026-2031」の柱「女子全体戦略」を策定

JFAは8月14日、「JFA成長戦略2026-2031～サッカーで未来をつくる～」のBIG GOALの一つである「女子サッカーの拡大」の実現に向けた「女子全体戦略」を発表しました。競技成績の向上および女子サッカー関連人口の拡大、ブランド価値の向上を目指し、「リーグ・育成年代の活躍」「競技人口の増加」「女子・女性の憧れの獲得」「商業価値の向上」「機会創出と環境整備」という5つの重点課題にサッカー界一体となって取り組みます。※8/14発表

U-16日本代表が2026/27 UEFA U-17欧州選手権予選に 併せて国際親善試合を実施

U-16日本代表は、10月27日から11月2日にかけてキプロスで開催される2026/27 UEFA U-17欧州選手権予選(ラウンド1・グループ13)に併せ、キプロス、ルーマニア、フェロー諸島のU-16代表と国際親善試合を行います。これはUEFAとJFAの連携事業の一環として、ユース年代の選手育成と国際経験の機会創出を目的に実施されるものです。なお、日本が出場する試合は親善試合として実施され、欧州選手権予選の成績には反映されません。※8/18発表

JFAとJリーグが共同プロモーションを展開

FIFAワールドカップ2026を契機に日本サッカー全体の盛り上げを創出するため、JFAとJリーグは「街の誇りを、世界へ。」をコンセプトとした過去最大規模の共同プロモーションを実施しました。交通広告やCM、スタジアムでの施策などを展開した結果、同時期に実施したアンケート調査によるとサッカー界全体の観戦者層が1,071万人から1,644万人へと約573万人増加、共同プロモーションへの接触者は、非接触者と比較して、その後の日本代表戦およびJリーグいずれについても3倍以上高い観戦意向を示す結果となりました。また、2026/27 Jリーグは開幕から2節連続で最多入場者数を更新するなど、大きな成果につながりました。※8/20発表

その他の主なニュース

- ・JFA×KIRIN共催「キリンファミリーチャレンジカップ2026 in 大阪」を11/1(日)にJ-GREEN堺で開催(7/28発表)
- ・天皇杯JFA第106回全日本サッカー選手権大会 株式会社SCOグループが3大会連続で大会特別協賛社に決定(7/31発表)
- ・令和8年熊本地震における「サッカーファミリー復興支援金」募金を開始(8/3発表)
- ・令和8年熊本地震の被災地復旧・復興支援のため、義援金を寄付(8/3発表)
- ・Fitotogether Inc.とJFAサポーター契約を締結～高精度トラッキングデータを活用し、日本サッカーの競技力向上を推進～(8/3発表)
- ・FIFAe Continental Championshipに臨むサッカーe日本代表4選手が決定(8/7発表)
- ・「育成年代応援プロジェクト JFA アディダス DREAM ROAD」2026年度も実施が決定 バイエルン・ミュンヘン(ドイツ)へ女子選手4名が短期留学(8/10発表)
- ・「審判交流プログラム」ドイツより審判員を招聘(8/12発表)
- ・JFA×SCO GROUP「FUTURE CAMP」 inspired by BLUE LOCKを米国カリフォルニアで初開催 人気サッカーアニメ「ブルーロック」とのコラボレーションによるタレント発掘キャンプ(8/20発表)

サッカー日本代表 テクニカルスタッフ

寺門大輔さんを マンマーク!



動画も
公開中!

第25回のゲストは、SAMURAI BLUE(日本代表)でテクニカルスタッフを務める寺門大輔さん。

2018年から現職を務め、リーダーとしてテクニカルスタッフを束ねる立場でもあります。宮本会長とともにFIFAワールドカップ2026を振り返ります。

テクニカルスタッフの奮闘 ますます重要視されていく時代に

宮本 ワールドカップの戦い、おつかれさまでした。(宿舎の)ミーティング会場近くにはコーチ陣の使う部屋が必ず用意されて、テクニカルスタッフの皆さんはずっとそこで作業をされていましたよね。

寺門 朝から夜遅くまで、みんなで一緒になってああでもない、こうでもないと言いながら作業していました。前回のカタールワールドカップ以降、より優勝に近づくために(分析において)必要な要素を抽出した上で、1個ずつクリアにしていこうとこれまで1試合1試合、積み上げてきました。同時に対戦相手を分析し、まずは相手の傾向をあぶり出してから、日本代表の強みを出していくためにどうすべきかを監督、コーチングスタッフと一緒につくり上げていく。今回のワールドカップでも同じでした。セットプレーの攻撃と守備を、ミーティングで選手たちにしっかりと落とし込んでいきましたし、監督、コーチングスタッフとスムーズにコミュニケーションが取れる体制でした。

宮本 試合当日、ミーティングを終えるとスカウティングスタッフはどのような動きになるのですか。

寺門 スタジアムに到着して、しばらくするとスターティングメンバー(スタメン)が発表されます。相手のメンバーが予想通りのときもあれば、予想と違うときもあります。その場合は、監督・コーチと注意する点を共有した上で選手にも伝えます。

宮本 ロッカーにはいくつかタブレットを置いていました。スタメンが出たら、相手の特徴を映像で確認できるわけですね。

寺門 ロッカーではもちろんのこと、いつでもスマホやタブレットで見ることができるよう(対戦相手の)26人の特徴をまとめた映像を用意しています。大体4、5分くらいにまとめたものです。自分の対面になりそうな選手の情報を試合前にもう一度、見直しておくという感じですね。

宮本 ブラジル代表とのラウンド32ではPK戦も想定されました。GKにはどのタイミングでキッカーの情報を伝えておくのですか。

寺門 (どのキッカーがどこに蹴るといふ)PKの傾向については、3人のGKには事前に伝えています。ただ、忘れないようにゴール脇に置くそれぞれのペットボールに、情報を書いて貼っておくというのもありましたね。

宮本 飲むタイミングでそれをチラリと見ておくんですね。

寺門 相手チームがそれを見つけて遠くに投げてしまうケースもあるんですけど、いろんな工夫をしながら伝えられるにはしていました。

宮本 48チーム制に拡大したことで分析の仕事はかなり大変だったと思います。

寺門 今回、筑波大学と東京大学の多くの学生さん、そしてJクラブのアナリストさんにも手伝っていただいて、何が起こっても対応できるような準備をしてきました。当初予定していなかった人数、予算を組み込んでいただいた宮本会長はじめ関係者の皆さんには感謝しかありません。今回の経験が今後に向けた大きな財産にもなったと考えています。

宮本 なでしこジャパンや、アンダーカテゴリーにおいても今回のワールドカップで得た財産を共有できればいいですね。

寺門 監督、コーチングスタッフと深くリレーションしながらミーティングを行い、選手ともしっかりコミュニケーションを図れたとは思っています。現場で本当に必要なものは何か、何を大切にすべきなのか。それはやはり現場にいなきゃ分からないことが多いので、そういったことをちゃんと整理しつつ可視化して伝えていけたらと考えています。データから学ぶことはもちろんですが、ずっと現場をやってきたと思うのは、やっぱり「信頼関係」が大事だということ。今分析に携わっている若い人たちにも、うまく継承できればいいなとも思っています。

宮本 テクニカルスタッフの皆さんの仕事ぶりを見てきましたが、もっと評価されるべき。その存在がますます重要視されていく時代になっていくはず。これから携わりたいという人も増えてくると思います。

寺門 データをうまく扱って意思決定やプレーにつなげていくことのできる人が増えていけば、組織の成長にもつながっていくんじゃないかと思っています。そうなればさらに活躍の場が広がっていくはずですし、(データを)受ける立場の人が良かったなと思えることが増えていけば、自然に評価も上がっていくのではないのでしょうか。そうやっていく未来を期待していますし、僕も自分の立場で尽力していければと思っています。

宮本 ぜひこれからも寺門さんにはテクニカル分野で引っ張っていただきたいと思います。

寺門大輔(てらかど・だいすけ)

1974(昭和49)年7月12日生まれ。東京都出身。筑波大学大学院修了。1999年より東京ヴェルディでテクニカルスタッフ、コーチを歴任。リオデジャネイロオリンピック日本代表、U-19/U-20日本代表のテクニカルスタッフを経て、日本代表のテクニカルスタッフとして2018FIFAワールドカップロシア、FIFAワールドカップカタール2022などで活動。現在は日本代表の分析・スカウティングを担うテクニカルスタッフのリーダーを務める。

※次号は2026年10月発行予定/本誌クレジット表記のない写真: ©JFA、©JFA/PR、©Jリーグ、©WEリーグ

